

## 主な委員意見と対応方針（案）

## 1. 令和6年度 第2回環境審議会（10/21開催） 委員意見

### 1-1 現行計画の検証及び福岡市の環境の現況等

整理 番号	委員意見	対応方針	今回まで に対応	次回以降 で対応
1	博多湾について、土砂の採取による窪地が存在している影響などで、貧酸素水塊が継続的に発生していると思う。貧酸素水塊を解消することは難しいが、測定地点や評価方法について検討してもよいと思う。	現在、国が窪地の埋め戻しを行っており、埋め戻しが完了次第、状況を確認した上で、今後の対策を検討したい。	●	●
2	自動車部門のCO2排出量（車種別）について、車種別の構成等を全国と比較・分析することで、エビデンスに基づく具体的な政策立案に繋がると思う。	自動車部門の脱炭素化については、国が改定を進めている地球温暖化対策計画（案）においても、車種（用途、サイズ）ごとに電動化、水素や脱炭素燃料の活用などを組み合わせて進めていくとされている。政策立案にあたっては、車種別の構成比なども把握しながら進めていく。	●	●
3	カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素の吸収源となる緑の質的向上を図る取り組みが必要と考える。そのため、緑の面積だけでなく、緑の質を評価する指標についても検討した方がよいと思う。	緑の質的向上は「カーボンニュートラル」や「ネイチャーポジティブ」の観点からも重要な視点と考えており、「緑の基本計画」を所管する住宅都市局とも連携を図りながら、素案の施策等への落とし込みを検討していく。	●	●

## 1-2 次期計画の方向性（めざすまちの姿）

整理番号	委員意見	対応方針	今回まで に対応	次回以降 で対応
1	案1の「アジアのモデル都市」と言える都市は少なく、唯一福岡がそう言える都市と思うので、福岡らしさという観点から入れてもらいたい。	<p>審議会総会での議論を踏まえ、資料2において、めざすまちの姿（案）・考え方・修正のポイントを提示させていただいている。</p> <p>また、めざすまちの姿をより鮮明にするとともに、計画の理念を伝わりやすくするため、めざすまちの姿の下に行動指針掲げることとしており、委員意見等を踏まえ作成している。</p>	●	
2	案1の「アジアのモデル都市」は魅力的なキーワードである。また、「循環」についても、循環経済など、国の目標に入っており、読む人にイメージを広げてもらえる象徴的な言葉であるため、重要であると思う。		●	
3	案1の「アジアのモデル都市」について、これだけ立派な計画を作るのであれば、「世界のモデル都市」でも良いのではないか。		●	
4	案1でも良いと思ったが、冒頭に都市という言葉があって、最後にまた都市が出てくるのはやや違和感がある。		●	
5	案1について、「都市環境と自然が調和した」の「環境」は自然と同じような意味合いに感じるため、環境という言葉は入れない方が良い。		●	
6	案1と案2を組み合わせた表現が良いのではないか。また、「心豊かに暮らせる」が抽象的でわかりにくいと感じた。		●	
7	環境基本計画であることを考えると、案2の「環境」という言葉が用いられていることに違和感を感じる。		●	
8	案2の「環境・経済・社会が好循環した」や案3の「快適環境都市」などはやや固いと思う。		●	
9	めざすまちの姿の議論にあたっては、福岡市の成長戦略の中で、環境政策がどのように貢献するかが読み取れる文言があるとよい。 また、一人ひとりが環境に対して行動すればするほど、まちが発展することをイメージできる言葉が良い。		●	

## 2. 第2回素案策定作業部会（12/20開催） 委員意見

### 2-1 めざすまちの姿

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	修正案のとおりでよいが、ウェルビーイングが市民にとってわかりにくいかもしれない。	ウェルビーイングについては、国の環境基本計画の最上位の目的に設定されており、重要な概念であることから、素案にて丁寧に説明を行い、市民等にとってわかりやすい計画となるよう努める。	●	●
2	修正案のとおりでよいが、ウェルビーイングの考えを反映している「心豊かに」について、少し表現が漠然としているため、説明が必要だと思う。			

### 2-2 骨子案の構成等

整理番号	委員意見	対応方針	今回までに対応	次回以降で対応
1	基本施策2のビジョン中に記載の「少子高齢化等の社会変化に対応した廃棄物や資源物の収集・運搬・処理体制～」について、少子化の問題とのつながりがわかりにくい。	修正案を提示させていただいている。	●	
2	「ネイチャーポジティブ」等の補足説明の記載の仕方を見直してほしい。	修正案を提示させていただいている。	●	
3	基本施策3-1の項目名「豊かな自然と多様な生きものを守り、活かす」と3-2の項目名「水とみどりを守り、活かす」が重複している印象を受ける。また、「活かす」という表現がわかりにくい。	修正案を提示させていただいている。 なお、「活かす」という表現については、自然の恵みを持続的に利用していく意味を込めている（生物多様性国家戦略においても、自然の恵みを「活かす」という表現が使われている）。	●	
4	「循環経済」との表記だけでなく「サーキュラーエコノミー」という言葉も記載してほしい。	修正案を提示させていただいている。	●	
5	骨子案の修正ではないが、中小企業が環境経営に取り組みたいと思えるような施策を立案してもらいたい。	素案に主な施策を掲載予定であり、環境経営の推進に着実に取り組んでいく。	●	●

## 2-3 骨子案の指標

整理 番号	委員意見	対応方針	今回まで に対応	次回以降 で対応
1	重点施策1の二つの指標「日頃から環境に配慮した暮らしを实践している市民の割合」と「環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合」は重複している印象がある。	重点施策1-1と1-2の項に合わせ、それぞれ「行動変容」と「意識の変容」に着目した指標として設定している。	●	
2	重点施策2の指標は中小企業等に直接聞いたほうがよい。	福岡市基本計画と同様、市民意識により、めざすまちの姿に対するインパクトを測る指標案としている。なお、中小企業の脱炭素化の取組状況等については、経済観光文化局が例年アンケートを実施しており、同アンケート結果を環境審議会にもお示ししながら進捗管理を図っていききたい。	●	
3	重点施策2の指標として、「ISO14001」「エコアクション」等を検討してはどうか。	福岡市基本計画と同様、市民意識により、めざすまちの姿に対するインパクトを測る指標案としている。なお、左記の取得には多額の費用を要するなど負担も大きく、今後の中小企業等への広がりに課題があると考えている。	●	
4	重点施策2の指標「環境に配慮した商品やサービスを提供していると思う市民の割合」はイメージしにくい。	アンケート調査では趣旨説明や具体例を加えるなど、わかりやすい内容となるよう努める。	●	
5	基本施策1の客観指標「温室効果ガス排出量」は一面に過ぎないのではないか。	福岡市は2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロのチャレンジ目標を掲げ、脱炭素の取組みを進めていることから、代表的な指標として設定している。なお、その他の指標は部門別計画にて設定・管理していく。	●	
6	基本施策2の客観指標「ごみ処理量」は経済活動が停滞すると減るものであり、人口が減少するとごみも減るため、指標として適切なのか。	福岡市は2040年まで人口増加局面と予測されており、施策の推進によりごみを減少させていく必要があることから、代表的な指標として設定している。	●	

2-3 骨子案の指標

整理 番号	委員意見	対応方針	今回まで に対応	次回以降 で対応
7	基本施策3の客観指標「絶滅危惧種等の確認種数」は「種数」でなく「個体数」にするべきではないか。	例年実施している「自然環境調査」により把握可能な「種数」を指標として設定し、市内の生物多様性に係る状況を測っていく予定としている。	●	
8	基本施策3の主観指標「豊かな水辺やみどりに親しむことができる空間が整備されていると思う市民の割合」は人工的なものか自然のものか区別がつかないが、自然度の高さにつながるような表現が好ましい。	修正案を提示させていただいている。 なお、自然のものを守り続けること、都市部等に人工的にみどり等を増やしていくことのいずれも重要と考えている。	●	
9	基本施策4の客観指標「環境基準達成項目数」は「項目数」とすると、大事なところを見落としてしまう恐れがあるのではないか。	修正案を提示させていただいている。	●	
10	基本施策4の客観指標の項目に「COD」を入れない理由は何か。	国において基準の見直しが検討されていることや、CODの更なる削減は栄養塩不足を進める可能性があることから、対象項目に入れていない。	●	
11	基本施策4について、「PFAS」など新たな環境問題に対応できるような指標を検討してはどうか。	現時点では環境基準が設定されておらず、現時点での設定は難しいが、引き続き動向を注視し、適切に対応していく。	●	